

令和5年度 Newsletter

「小児患者の成人移行支援の進め方ー慢性疾病をもつ子どもに必要な自律(自立)支援とはー」をテーマに、医療従事者向けの研修会をオンラインにて開催しました。

勤務終了後の開催にも関わらず、医師、薬剤師、看護師、医療ソーシャルワーカー、保健師など、50人に参加いただきました。特に医師の参加が多く、成人移行支援についての関心の高さが伺えました。

研修会の内容



日時:11月7日(火) 18:30~20:00

講師:犬塚 亮 氏

東京大学医学部附属病院 小児科講師



【主な活動分野】

先天性心疾患、小児カテーテル治療、小児集中治療、
肺高血圧症、マルファン症候群、心臓移植

日本小児科学会移行支援に関する提言作成ワーキンググループ委員

「移行支援プログラムと移行期の支援の手順」という演題で講演をしていただきました。症例の紹介、移行期支援外来の実際についてお話いただき、「移行支援を進めるためには自律(自立)支援が大切であること」「多職種からなる体制の構築」「チームによる系統的アプローチが有効であること」「成人科についての十分な説明を行い患者の不安を取り除くこと」「細やかな診療連携」「転科後のフォローが大切であること」などたくさんの重要なポイントを学ぶことができました。

アンケート結果(一部抜粋)

- ・移行に際して患者の自立を意識的に促すこと、チームを作ってみんなで取り組むことなど具体的な取組を教えてくださいました。明日から自分も取り組もうと思いを新たにしていたいただいた内容でした。(医師)
- ・今後の移行の方法が明確になりました。まずは多職種での連携体制を作ろうと思います。(医師)
- ・小児診療側としての工夫がわかり勉強になった。疾患が多臓器にわたる場合、全体を相談するかかりつけ医と専門領域を相談する診療科のめどを立てて紹介していただけると受け入れやすい。(成人科医師)
- ・院内の実態把握から取り組み中です。それをもとに計画的にシステム化を図っていきたいです。(看護師)
- ・高校生くらいから成人科の医療機関へ移行の話患者・家族に行っている。移行支援プログラムの取組は大変興味深いお話でした。(医療ソーシャルワーカー)
- ・実際に病院の中でどのような体制があるのか、支援がされているのかを知る機会がなかったので、参考になった。(保健師)